

令和元年度第5回春日井市地域公共交通会議議事録

1 開催日時 令和2年2月6日(木曜日)10時～11時45分

2 開催場所 市役所3階 301・302会議室

3 出席者

【会長】	中部大学 工学部都市建設工学科教授	磯部 友彦
【委員】	春日井市 市長	伊藤 太 (代理 堀尾 明宏)
	名鉄バス株式会社	
	営業本部運行部運行課長	吉岡 実
	近鉄東美タクシー株式会社	
	運輸部長春日井営業所長	相川 敏行 (代理 下屋敷 輝樹)
	公益社団法人愛知県バス協会専務理事	小林 裕之
	愛知県タクシー協会 春日井支部長	奥村 薫績
	高蔵寺ニュータウンセンター開発株式会社	
	取締役	裏見 敏郎
	春日井市区長町内会長連合会 理事	足立 弘之
	春日井市老人クラブ連合会 副会長	金田 辰男
	社会福祉法人春日井市社会福祉協議会 会長	黒田 龍嗣
	春日井市婦人会協議会 書記	伊藤 月美
	国土交通省中部運輸局愛知運輸支局	
	首席運輸企画専門官	上井 久仁彦
	愛知県交通運輸産業労働組合協議会 幹事	熊谷 浩明
	愛知県春日井警察署 交通課長	馬場 信幸
	愛知県都市整備局交通対策課 主幹	渡邊 重之
	春日井市建設部 道路課長	荻谷 健生
【事務局】	春日井市まちづくり推進部都市政策課	
	課長	森 浩之
	課長補佐	三浦 晶史
	課長補佐	松浦 武幸
	主査	矢川 将史
	主査	花井 輝年
	主任	米山 創
	技師	北 恵伍

ニュータウン創生課

課長補佐 村上 貴幸

企画政策部企画政策課

課長補佐 近田 政典

主査 市場 義規

4 議題

- (1) 協議事項 1 かすがいシティバス高齢者等定額料金乗り放題の実証実験について
- (2) 協議事項 2 春日井市地域公共交通網形成計画について
- (3) 協議事項 3 地方版図柄入りナンバープレートの寄附金活用事業について
- (4) 報告事項 1 牛山区交通検討会について
- (5) 報告事項 2 かすがいシティバスの見直しについて
- (6) 報告事項 3 高蔵寺ニュータウン実証実験について

5 会議資料

- ・令和元年度第5回春日井市地域公共交通会議次第
- ・春日井市地域公共交通会議委員名簿
- ・資料 1 かすがいシティバス高齢者等定額料金乗り放題の実証実験について
- ・資料 2 春日井市地域公共交通網形成計画について
- ・資料 3 地方版図柄入りナンバープレートの寄附金活用事業について
- ・資料 4 牛山区交通検討会について
- ・資料 5 かすがいシティバスの見直しについて
- ・資料 6 高蔵寺ニュータウン実証実験について

6 議事内容

- (1) 協議事項 1 かすがいシティバス高齢者等定額料金乗り放題の実証実験について

【米山主任】

資料 1 について、説明を行った。

【磯部会長】

内容を整理すると、第3回会議では案①を提案したが、事務局で精査し、案②を新たに提案した。それについて委員と議論し決定していきたいとのことである。

委員に意見を求めた。

【上井委員】

販売のスケジュールと今回の利用期間について、販売が4月で終了し実験開始してから気付いた人が購入できない点と、1ヶ月券については5月だけの実験となっている点について、この考え方を事務局に伺いたい。

【松浦補佐】

1ヶ月券が5月31日で終了した後に、6月や7月の1ヶ月券はないのか、という点については、今シティバスを運行している名鉄バスとも協議する中で、今回初の試みということもあり、販売所での販売や運転士による定期券の確認など、こういった作業の中で間違いがないようにしようとすると、まずは今回のように、利用者の利便性よりは事業者で間違いの起こりにくいやり方で設定している。事業者も出席しているため、そのあたりの考え方について話してほしい。

【吉岡委員】

価格設定については案②でいきたいとのことで、価格設定としても非常に安価な定期券である。また、1ヶ月券と3か月券の2種類の発売である。あくまで実証実験であるため、乗務員や利用者間違いがないよう、できるだけシンプルに販売する形で提案した。周知期間は1ヶ月であり、期間的に若干短い気もするが、今回の提案のとおり実施できればと考えている。

【上井委員】

5月以降に購入したい人が来ても断るということか。

【松浦補佐】

原案ではそういうことになる。1ヶ月券の販売が好調で、購入が広まるような場合には、事業者である名鉄バスと追加販売の是非について調整しながら実施を検討していきたい。

料金の許認可上、愛知運輸支局として追加販売が可能なのか伺いたい。

【上井委員】

法律上は金額に変更があれば届出が新たに必要となるが、販売期間は特に重視していない。

【磯部会長】

この会議では定期券の金額を協議し、申請するということになる。あとはどう運用していくのか、ということについては検討してほしい。

【渡邊委員】

販売期間を過ぎてから気が付いた人からの問合せを記録することで、実装に向けた販売期間の設定の参考にしてほしい。実験なので、期間ははっきり確定させて、検証結果を次に反映して行ってほしい。

【伊藤委員】

1日乗車券利用を想定して価格設定をしたとあるが、乗車券はどんなものか。

【松浦補佐】

定期券を考えており、期間中であれば提示することで乗り放題となる。

【磯部会長】

定期券の値段というのは何を基準とするのが難しく、民間の通勤定期なども実利用に合わせた価格設定をしているため、今回は1ヶ月で4回1日乗車券を利用した場合の値段設定にしたいとのことである。

あと、第3回では案①で提案したが、今回は少し価格を上げた案②で実施したいとのことであるが、何か意見があれば伺いたい。

【奥村委員】

現在は通勤定期券の販売は行っていないのか。

【松浦補佐】

シティバスの利用者は主には昼間の高齢者を想定しており、通勤定期券などは販売していない。現在販売しているのは、回数券と1日乗車券であり、今回の定期券は1日乗車券が1ヶ月などに延長されたイメージである。

【磯部会長】

他に意見なければ、かすがいシティバス定額乗り放題の実証実験について、販売期間は資料1のとおりとした上で、追加販売などは別途検討することとし、料金については案②で、原案のまま可決としてよいか。

【一同】

異議なし。

(2) 協議事項2 春日井市地域公共交通網形成計画について

【北技師】

資料2について、説明を行った。

【裏見委員】

施策例の「国・県・市が行うもの」の中に「バスの路線・便数の維持の支援」と書いてあるが、その内容には財政的な支援も含まれるのか。

【松浦補佐】

現在でも、例えば国や県の支援で、地域間幹線の路線バスは補助を受けており、市内の路線でも、補助路線が2路線ある。また、市で独自に、補助している路線も2路線あり、ここにある「バスの路線・便数の維持の支援」は、財政的な支援も含んだものである。

【裏見委員】

ということは、今後採算的に厳しくなった路線への新たな支援はあるのか。

【松浦補佐】

その際は、市による財政支援などの下支えが必要かどうか、この会議で諮りながら検討していくことになる。

【上井委員】

網形成計画を議論するにあたり、パブリックコメントの前までにどれくらい議論の余地があるか。

【松浦補佐】

第3回会議では課題、目標、手法について示しており、そこで出た委員の意見を踏まえて課題などを整理し、本日施策例を提示している。今後の報告スケジュールとしては、本日の議論を踏まえて、施策・実施主体、計画の目標値、その目標の達成状況の評価方法に

ついて次回提示する予定である。夏頃にパブリックコメントを予定しているため、あと2回程度会議開催を考えている。

【上井委員】

あと2回ということであれば、計画の素案も提示してほしい。その中には、ぜひ市として何を指すのかという全体像、大きいビジョンを載せてほしい。あと、今回示した施策例で、誰が行うかという整理をしているが、まず何をしなければいけないのか、そういう施策から検討し、ではそれを誰が担っていくのか、という整理が望ましいので、計画の素案を作成する上ではそのように整理してほしい。また、国の方では、来年度、活性化再生法と運送法の法改正を予定しており、その中で、地域が自らデザインする地域の交通について取り組むこととされているので、それも踏まえて素案に着手してほしい。また、目標値についても、法改正によると定量的な目標はしっかりと明記するという考え方がある。あとはその目標をしっかりと評価していくこと、いわゆるPDCAについても、毎年の評価方法も盛り込んだ形で素案を作ってほしい。昨日、清須市が第二期の網形成計画のパブリックコメントを開始しており、PDCAが詳細に記載されているので、参考にしてほしい。

【奥村委員】

施策の話があったが、現実的には高齢化で労働力の確保が難しく、運輸業界では働き方改革、時間短縮などもあり、人手確保が大変な状況である。豊橋市で実施している、二種免許取得に対し事業者へ費用の半分を負担するような支援や、市で実施している就職セミナーなどに事業者が参加して運転手確保に向けてPRしたり、春日井まつりなどでブース出展してバスやタクシーなどについて理解を深めてもらう活動もあると思うが、市としてどう考えるか。

【上井委員】

業界も労働力が少なく、人材の確保が難しい中で、色々な場面で事業者とコラボして人手を確保しようという、非常にいい意見だと思う。ぜひ春日井市でも取り組んでほしい。

【松浦補佐】

会議後でもこのような意見をもらえれば、事務局で調査検討し、市にふさわしいものを導入していきたい。

【黒田委員】

第3回会議において、高齢者サロンの参加者がサロンの後に、買い物に行きづらい人を募集して市内のデパートに行くという企画をしており、そういった活動を増やしていきたいという発言があったが、そんな中で、現在、サロンと地域包括支援センターが一緒になって、買い物支援事業を実施する動きがある。市内にサロンは100団体ほどあるため、外出しにくい人にはそのような事業で支援していく必要がある。

【吉岡委員】

先ほどの奥村委員の発言のとおり、市との打合せの場において、運転手確保の活動として、商工会議所のイベントなどの中で、当社の仕事を紹介することについて相談しており、

ぜひお願いしたいところである。実際に事業者としては二種免許取得のために養成制度を実施しており、取得に関するハードルを少しでも下げて、より入りやすい状況を作れるよう工夫している。また、高齢者の任用年齢を73歳まで引き上げて業務に従事できる環境を整えているところである。

バス路線の維持、便数の維持については、事業者としてはあるべき姿とは思いますが、路線を維持するために、利用状況や効率化などに応じた便数の変更は必要となるので、理解をしてほしい。

【磯部会長】

一度整理すると、愛知運輸支局からは、新しい法律の動きがあり、網形成計画とは異なる名称の枠組みも準備しており、法改正の中間報告には、より一層色んな組織が一緒になって様々な方法論で取り組むなど記載されている。その中には人材についても明記されており、交通事業者だけではなく地域の人材、行政職員などの育成という話もあり、方法論の新たな一つである、M a a Sなどの活用についても記載がある。そのためには計画の目標が必要であり、市民の移動のすべてをターゲットにしてどういうまちにしたいか、というところを整理していくことが必要となってくる。

【松浦補佐】

市としても法改正については承知しており、次回会議では、全体的なビジョンを大きく掲げた上で、施策例を具体化し、数的な目標を設定したものを提示していきたい。また、社会福祉協議会による取組事例をうかがったが、引き続き、会議の場や会議後でもかまわないので、このような意見を伺いたい。

【磯部会長】

上井委員からあったとおり、次回会議では網形成計画の素案があると、もう少し全体像が見えてくるので、準備しておいてほしい。

それでは、本日も協議事項として意見交換を行ったので、事務局は本日の意見を受けて検討を進めてほしい。

(3) 協議事項3 地方版図柄入りナンバープレートの寄附金活用事業について

【市場主査】

資料3について、説明を行った。

【磯部会長】

資料3にあるとおり、この寄附金は春日井市の外にあるお金であるが、春日井市内で発生したお金なので優先的に春日井市で活用できる。その時には使い方を決める会議を設ける必要があり、その内容がこの交通会議と合っているため、この会議の所管事業の一つとしてよいか、という点と、その使い方については今後検討していきたいという2点である。

委員に意見を求めた。

【上井委員】

国から補足すると、図柄ナンバープレートは大きい意味で地域振興ということで導入された。寄附金を活用できる対象事業はいくつかあるが、観光事業について未確定の部分があるので、適宜確認してほしい。また、この会議で寄附金の使い方を決める時は、地域で活用するという趣旨から、愛知運輸支局は議論には参加できない。現在、寄附金の使い道を決めている事例は少なく、唯一熊本県で自動車の安全ブレーキの補助装置に対する助成を行っているため参考にしてほしい。県内では、豊田市も図柄ナンバーを実施しており、豊田市も交通会議を協議会として位置づけようという考えで動いている。

【磯部会長】

他に意見なければ、この会議体を図柄ナンバープレートの寄附金活用事業に関する協議会とし、今後、使い道について検討していくことについて、原案のまま可決としてよいか。

【一同】

異議なし。

(4) 報告事項1 牛山区交通検討会について

【米山主任】

資料4について、説明を行った。

【磯部会長】

補足すると、北部線というかすがいシティバス路線の見直しも絡んでくる。現在、北部線は病院と市役所と駅をつないでいるが、駅への接続の必要性や、小牧市との市境にある地域ということで、小牧市民病院への需要など、そういう点も踏まえて地域で検討しているものである。

(5) 報告事項2 かすがいシティバスの見直しについて

【米山主任】

資料5について、説明を行った。

【渡邊委員】

シティバスの位置づけとしては通勤通学の位置づけはあまり考えていないということで、路線バスが通勤通学の足としてよく利用されていることだと思う。見直しにあたっては高齢者の移動手段の確保であればそこに焦点を絞ってもいいと思う。そうなると、自宅からバス停までがづらい、バス停までの距離をもっと短くしてほしいなどの要望が出て、路線の長大化は高齢者にとってはあまり気にならないことかもしれない。このように、ターゲットをどこに絞るのかというところも考えて見直しを進めてほしい。

【吉岡委員】

再編については、市と調整を行っているところである。現状の長大路線は労働環境などの面からも問題であり、その解消が一つの目標である。連続乗務の改善や乗務員の休憩時間の確保など法に抵触しない路線計画を進めることが事業者にとって一番重要な部分であ

り、現在の業務量の中でいかに効率よくバス路線を引いていくか、細かな提案をしているが、定時性の確保は可能であるものの、若干の便数の見直しなどに影響してくることは事業者にとって大きな課題であるという事は伝えておきたい。

【小林委員】

シティバスだけでは住民のすべてのニーズに応えられないので、鉄道や路線バス、タクシーなどの既存の公共交通を重視した形で、見直しを進めてほしい。

先程説明のあった牛山地区での検討は、この見直しとはどう関係していくのか伺いたい。

【松浦補佐】

北部線は運行状況が好ましい状況ではないことについて、牛山地区の方も認識しており、北部線廃止の危惧からこのような活動につながっている。牛山地区との検討によって、北部線のような定時定路線のバスタイプの見直しに至るのか、タクシーのようなデマンドタイプの乗り物への切り替えを目指すのかは、明日、他市の事例を牛山区と一緒に拝見し、そこの地域の自治会とも意見交換をし、検討していく。見直しのスケジュールとの兼ね合いから、必ずこうなるという約束はできないが、いずれにしても、北部線と牛山地区の検討は切り離すものではないと考えている。

(6) 報告事項3 高蔵寺ニュータウン実証実験について

【村上補佐】

資料6について、説明を行った。

【上井委員】

昨年春から春日井市では様々な実証実験を実施していると思うが、この実験を終えて今後どうしていくのか、ということを含めて今後策定する網形成計画の中にも記載できるスケジュールで進めてほしい。

【渡邊委員】

ゆっくりカートの実証実験は11月の何日間実施したのか。

【村上補佐】

11月5日から22日までの2週間強である。

その他

【磯部会長】

議題はすべて終わったが、他に何か発言はあるか。

【上井委員】

会議の中でも話にあったが、愛知運輸支局の方でもバスやトラックの就職相談会や運転・乗車体験会を実施するので、周知をお願いしたい。

【松浦補佐】

網形成計画を作成する上で国からの補助金を受けており、事業の自己評価を行った。今後、2月18日に国の第三者評価委員会において評価を受ける予定であるため、結果については次回会議で報告する。

上記のとおり令和元年度第5回春日井市地域公共交通会議の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、会長及び出席者1人が署名及び押印する。

令和2年3月13日

会 長 磯部 友彦

署名人 伊藤 月美